

厚生労働行政推進調査事業費補助金（エイズ対策政策研究事業）
分担研究報告書
血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者に対する外科治療の標準化に関する研究

研究分担者 稲垣 冬樹 国立国際医療センター 肝胆膵外科・診療科長

研究要旨

HIV/HCV 重複感染者に対する外科診療、手術療法の検討をおこなうために、2012 年から 2019 年の間に、当院で消化器癌に対する外科手術をおこなった HIV 感染者に関するデータベースを作成して、その短期成績を検討した。HIV/HCV 重複感染者の手術成績と比較検討したが、大きな違いは認めなかった。

A. 研究目的

HIV/HCV 重複感染者に対する外科診療、手術療法の検討をおこない、血液製剤による HIV/HCV 重複感染患者に対する外科治療の標準化を目指す。

B. 研究方法

当院で消化器癌に対する外科手術をおこなった HIV 感染者に関するデータベースを作成して、その短期成績を検討した。また HIV/HCV 重複感染者との比較検討をおこなった。

（倫理面への配慮）

収集する被験者の個人情報を含むデータは、電子カルテから電子症例報告書に個人情報を含めない情報を転記する。被験者識別コードはカルテIDとの規則性を有さない番号を使用する。また、被験者個人を識別するための匿名化対応表は、セキュリティの厳重な部屋に保管することにより、情報の漏洩に対する安全対策を講じる。研究結果の報告、発表に関しては個人を特定される形では公表しない。

C. 研究結果

2012 年から 2019 年に当院において消化器癌に対して手術を受けた HIV 感染者 32 例のデータを収集した。そのうち HIV/HCV 重複感染患者は 7 例であった。手術術式は膵頭十二指腸切除術や食道切

除術から人工肛門造設術まで多岐にわたっていた。Clavien-Dindo 分類 Grade IIIa 以上の合併症を 4 例に認めたが、そのうち HIV/HCV 重複感染患者は 1 例であり、有意差は認めなかった。

D. 考察

今回の検討では、HIV/HCV 重複感染者と HIV 感染者の手術短期成績に関しては大きな違いは見られなかったが、症例数が限られていたため、さらに症例を集積して比較検討をおこなう必要がある。

E. 結論

次年度は 2020 年から 2024 年までの間に当院で消化器癌に対する外科手術をおこなった HIV 感染者に関するデータも収集して、併せて検討をおこなう。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
該当なし
2. 学会発表
該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
 該当なし
2. 実用新案登録
 該当なし
3. その他
 該当なし